

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設 (海洋博覧会地区内施設)	対象年度	令和4年度 (R4.4～R5.1)
------	--------------------------------	------	----------------------

【目次】

Ⅰ. 履行確認・評価

1. 維持管理業務 1

- (1) 施設維持管理
 - 1) 維持修繕・保守点検
 - 2) 清掃
 - 3) 植物管理
- (2) 大規模修繕
- (3) 利用者案内・警備
- (4) 防犯・防災対策
 - 1) 事故・災害防止
 - 2) 安全点検

2. 運營業務 8

- (1) 利用実績
 - 1) 利用者数等
 - 2) 施設稼働率
- (2) 運営企画
- (3) 料金收受
- (4) 飼育展示
 - 1) 水族館内
 - 2) 海獣施設
- (5) 生物等管理
 - 1) 水族館内
 - 2) 海獣施設
- (6) 調査研究
- (7) 普及啓発
- (8) 飲食・売店営業
 - 1) 飲食施設等
 - 2) 物販施設等
 - 3) 自動販売機及びコインロッカー
 - 4) 記念写真の撮影販売
 - 5) 展示生物とのふれあい体験
- (9) 広報・誘客
- (10) 受付・接客
- (11) 情報管理

3. 自主事業 20

Ⅱ. サービスの質の確認・評価 24

Ⅲ. 財務状況の確認・評価 26

1. 事業収支

- (1) 収入
- (2) 支出

2. 経営分析指標

Ⅳ. 総合評価 29

1. 目標

2. 評価結果

附表 経営状況分析シート 31

※必要に応じて項目を追加・削除する。

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

施設名称	沖縄県国営沖縄記念公園内施設(海洋博覧会地区内施設)	対象年度	令和4年度 (R4.4～R5.1)
指定管理者	一般財団法人 沖縄美ら島財団 指定期間:平成31年2月～令和5年1月	所管課	土木建築部 都市公園課

I. 履行確認・評価

1. 維持管理業務

(1) 施設維持管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1)維持修繕・保守点検 建物、園路広場、電気設備、汚水・排水施設等について、所要の目的が果たされるよう、日常、適宜巡回点検・保守点検し、常に安全で良好な状態にあるよう、利用の状況に応じて破損個所の軽微な補修又は補充を適切に行うとともに、省エネ製品の導入や省エネ活動により、総電気量の削減に努める。また、給水施設や電気設備の使用量を計測し記録を行う。施設の安全を確保するよう管理を確実にし、国事務所が実施する公園整備(新規・改修)工事および及び公園調査等の協力、立会い等を行う。	○	○	【運転監視】 ・中央監視盤にて、飼育設備、デマンド及び空気調和設備等の監視を行う等、日々の安全運転を確保した。また開場に向けて、照明点灯や空調機・昇降機等の稼働等を点検した。 ・飼育設備等、夜間の機器運転監視や不測の事態への対応のため監視員の配置を行った。 ・水族館内の巡視により館内が常に良好な状態を保つよう努めた。また必要に応じて空気環境測定等を行い、空気調和設備運転員との連携を図り良好な環境を維持した。 【建物・設備・工作物点検及び修繕】 建物及び工作物等が常に安全で良好な状態を保つよう、巡視又は定期点検(法令点検含む)を行い、不具合の発見や発生があった場合には個所の修繕を迅速、かつ適切に行った。 【水槽の保守】 アクリルの傷や劣化、歪み等について、巡視等による点検を行った。水槽からの水漏れについて、漏水した海水が観覧に支障が出ないよう導水されているか巡視等による点検を行った。 「黒潮の海」水槽の水漏れについて、補修方法を決め施工メーカー(日プラ)による補修等を行った。 【水質管理】 ろ過循環量調整・海水補給量調整を行い、ポンプの台数運転及びバルブ操作を実施した。また、適宜ろ過器の逆洗運転や「黒潮の海」給餌後の水槽内濁り復旧のため、海水補給水ポンプを追加運転した。 【点検記録の作成保管】 建物及び工作物等が常に安全で良好な状態にあるよう、巡視又は定期点検を行った。不具合等の発見や発生があった場合には、当該個所の修繕を迅速かつ適切に行った。	・設備日報、月報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。 ・入場者の快適な観覧を維持するため、水槽からの水漏れについて、漏水した海水が観覧に支障が出ないよう導水されているか巡視等による点検や適宜補修を行っていることを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も継続して施設及び設備の状態を監視し、適宜補修・修繕を行う必要がある。 ・水漏れは施設稼働初期からの課題であり、「黒潮の海」水槽については補修を計画している。他の水槽については、稼働しなからの補修が難しいため、施設利用状況と漏水状況を注視しながら対応を検討する必要がある。

2) 清掃 常に清潔を保ち快適な環境を保持するため、建物清掃(建築物ねずみ昆虫等防除作業等の法令作業含む)及び植栽地等清掃は、年間清掃実施計画(建物、植栽地)及び実施工程表にもとづき実施する。実施にあたっては、利用頻度等を考慮し、運営上必要な臨時清掃や特別清掃を行う。更に、園路の塵芥、空き缶及び土砂等の除去、雨水等による汚れを掃除し、必要に応じて水洗浄を行う。また、館内等混雑時、イベント時、荒天時及び感染症対策等にも迅速に対応できる体制を確保し、運営に支障がないよう清掃等を行う。	○	○	【日常清掃】 場所・部位別に防塵、掃き掃除、拭き掃除、ゴミの収集や衛生消耗品の補充や管理等の日常的な作業を行い、汚れの除去を行った。 【日常巡回清掃】 開場中において場所・部位別に防塵、掃き掃除、拭き掃除、ゴミの収集や衛生消耗品の補充や管理等を日常清掃後に巡回しながら行い、汚れの除去を行った。その他、感染症対策等として、手摺の除塵と消毒、手指消毒液の残量確認と補充・取替え、汚物処理の適宜対応と適正処理、アクリルガラスの部分拭きを行った。新型コロナウイルス感染拡大防止対策の為、手摺等の消毒を実施した。 【定期清掃】 場所・部位別に、週、月又は年単位の周期で定期的に行う清掃を実施した。 【塵芥回収】 施設内のゴミ集積所の塵芥を回収し、本部町今帰仁村清掃施設組合が指定する方法で分別したのち、本部町今帰仁村清掃施設組合まで運搬・持ち込みし処理した。 【臨時清掃】 上記に含まれない臨時の清掃として、館内の壁や天井の埃落しを行った。 【ねずみ等の防除(予防と駆除)】 食品等を扱う区域、排水槽、阻集器および廃棄物の保管設備の周辺等特にねずみ等が発生しやすい箇所の、生息状況の調査実施を行った。 【植栽地等清掃】 公園利用者の利用頻度の高い箇所について、園路は開園前の時間帯はブロー等を用い清掃した。芝地及び園地は塵芥、空き缶及び空瓶等を除去し、必要に応じて掃き掃除を実施した。季節や荒天に左右される落葉や、時間帯や場所等、利用者の動向により左右されるゴミの発生状況を把握し、効率的な清掃を行った。集積したゴミは適切に処理した。落葉等の植物発生材はエコフレームに搬入し、景観的に影響が少ないものは、植栽地内へ掃き込んだ。園路広場及び側溝等の塵芥、空き缶、空瓶及び土砂等の除去及び雨水又は車輛等による園路広場の汚れを掃除した。併せて、園内のベンチ、テーブル、ゴミ箱及び灰皿等の掃除を行った。	・管理日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・管理体制を継続し、良好な状態を維持できている。
---	---	---	--	--	------------------------------	--

3) 植物管理業務 利用者の安全確保・緑陰形成・景観向上・開花時期等に十分に配慮し実施する。実施にあたっては年間植物管理計画にもとづき行う。	○	○	【花壇管理】 フラワーボールの植え付け、プランターの植え付け・設置、造形物花壇等への植え付け、臨時花壇植え付けを行った。 【芝生管理】 周辺の芝生地において芝刈り、施肥、目土、除草、灌水を行った。 【地被植物管理】 水族館の屋上緑化の除草、刈取り、補植を行った。 【樹木管理】 高木・中低木の枯損木撤去を行った。 既存植物を痛めないよう植込地除草を行った。 【観葉植物】 館内外の観葉植物等の入れ替え、手入れ、タッチプール周辺の植物の入れ替えを行った。 【壁面装飾】 ラン等で壁面へ装飾(植物の手入れ等含む)を行った。 【その他】 多年草植え付け、植物性発生物の処理等を行った。 プランターの移動、臨時花壇の設置、花がら摘み、枯死株の入れ替え等を実施した。台風の場合は対策として、草花の損傷を防ぐため倉庫への移動、造形物は必要に応じてトンブロック等で強風による移動・損壊を防ぐとともに、草花等を強風から保護するために防風ネットで覆い、また、開場や利用者の安全管理に支障の恐れがある場合には、事前対策作業等を行った。 枯損木を撤去することで、台風等の突風や豪雨などによる倒木の危険性を除去した。	・月報、日報、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・適宜、枯損木を撤去することで、台風等の突風や豪雨などによる倒木の危険性の除去ができている。
---	---	---	---	--	------------------------------	--

(2) 大規模修繕

事業計画	実施主体 (該当事者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
本施設の建物、工作物、飼育・電気設備の構造及び状況を理解・把握し、計画立案から工事監理までを一元的に管理できる体制を整え、国の大規模修繕計画を踏まえ、別紙2のとおり策定した「大規模修繕計画」に従って実施する。 ①施設・設備の現況(劣化状況や改修履歴等)と機器耐用年数を基に優先度を検討し、更に利用者への影響が最小限になるよう実施年度を組換えて実施計画書を作成し県と協議を行い、実施する。 ②主要施設の工事内容と金額は県と協議を行い、決定し実施する。 ③利用者の利用や安全に影響がある工事について、安全確保策や施工効率化策を実施し、利用者の安全を確保しつつ、営業への影響を最小限とするよう対策を計画し、県と協議を行い、実施する。 ④大規模修繕工事設計工事対象に関わる設計業務として必須事項となる要件を踏まえ、大規模修繕にかかわる工事設計業務を行う。 ⑤実施体制や安全等を確保しつつ、国や県の工事・設計基準等を遵守しながら工事を適切に実施し、要求される施設の性能を確保する。 ⑥工事監理者を適切に決定し、工事監理業務を実施する。	○	○	・県と協議を行い、当初の計画から縮小した上で策定した大規模修繕計画に基づき以下のとおり、大規模修繕を実施し、期間内に完了した。その他、劣化部品等の部分交換・取替え管理水準やサービス水準を維持向上させるために必要な、部分補修・部品交換等や施設の修繕を実施した。 ・令和4年度 非常用発電所等自動火災報知設備更新業務 ・令和4年度 水族館エスカレーター整備業務 ・令和4年度 水族館スクリーン冷凍機整備業務	・事業計画書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・国や県の工事・設計基準等を遵守しながら大規模修繕を適切に実施し、要求される施設の性能を確保し良好に実施できている。 ・築20年を超え、近年見込んでいなかった修繕が生じており、点検による早期把握と優先順位を付けた計画の策定と着実な実施が求められる。

(3)利用者案内・警備

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
①館内・屋外案内員の配置 子供や障害者等の弱者及び外国人を含めたすべての利用者が快適に楽しめるよう施設や接客など、教育を受けた案内員を配置し、接客にあたる。	○	○	・年間を通して券売・改札・案内員・警備員を配置し、料金収受、案内業務、場内整理、警備・巡視を行った。 ・来場者が増加傾向ではあったが、増員は行わず効率的に適正な配置を行った。	・日報、案内員配置表、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も効率的な人員配置に取り組む必要がある。
②駐車場運営 ・適切な情報提供と誘導 駐車場の満空情報を多様な利用者に対応した方法で提供する。 過去データにもとづく、事故に対する注意喚起を実施する。 駐車場に警備員を配置し、安全な入庫誘導を行う。 ・混雑時対応 混雑が予想される際は、警備員の増員等を行う。 ・緊急時対応 駐車場内での事故発生時には、救護や誘導等人命を最優先とした適切な対応を行う。	○	○	・駐車場の満空情報をカーナビ(vics)等リアルタイムで提供した。 ・駐車場各所に警備員を配置し、警備、誘導を実施した。 ・来場者が増加傾向ではあったが、増員は行わず効率的に適正な配置を行った。 ・駐車場内での事故発生については、自損事故(車両同士の対物事故)等。人身事故、施設破損等はなし。 ・事故処理件数:43件	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・水族館内滞留者数や周辺道路の混雑状況を注視しながら、北ゲート立体駐車場を封鎖し、他の公園駐車場へ分散させることで、混雑緩和と感染防止に努めている。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も混雑緩和と感染拡大防止対策に取り組む必要がある。

(4) 防犯・防災対策

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 事故・災害防止 防犯・防災については、国営沖縄記念公園防災計画等(危機管理マニュアル)に基づき、事件・事故・自然災害等予防の取組みを行う。 ・施設の使用状況を監視モニター及び入場者管理システムを活用し適宜把握する。館内滞留者数が約2,000名を越えた時点で「注意体制」、約2,500名を越えた時点で「入場規制」を実施する。 ただし、新型コロナウイルス感染予防ガイドラインを感染状況に合わせ、3密対策を考慮し、滞留者数が800名を超えた時点で「注意体制」とし、1,250名で「入場規制」とする。 ・事故や災害が発生した場合は、体制を確立し、迅速かつ的確に情報を伝達、利用者の安全確保、避難誘導等を行う。負傷者が発生した場合は、迅速にその救済・保護の処置をとり、本施設設備に瑕疵があった場合は速やかに県に報告する。	○	○	●事故・災害防止 ・監視モニター及び入場者管理システムを活用し、施設の利用状況を適宜把握した。 ・館内の密集する箇所には、自動音声センサーを設置し、密集回避に努めた。 ・新型コロナウイルス感染予防ガイドラインを感染状況に合わせ、3密対策を考慮し、滞留者数が800名を超えた時点で「注意体制」とし、1,250名で「入場規制」とした。 ・水族館内滞留者数や周辺道路の混雑状況を注視しながら、北ゲート立体駐車場を封鎖し、他の公園駐車場へ分散させた。また、蛇行入場で入場者数を緩やかにした。一時的に混雑する時間帯があったが、入場規制を実施するまでには至らなかった。 ・「危機管理マニュアル」に基づき実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、救護室の利用を中止した。 ・救護対応マニュアルに基づき、軽微な怪我の処置でも絆創膏を手渡すなど接触を避けた対応とした。また体調不良者には近隣の医療機関案内図を配布するなど適切に対応した。 ・負傷者が発生した場合は、迅速にその救済・保護の処置をとり、救急車要請があった場合は速やかに沖縄県に報告した。 ・救護対応:166件 (内救急車要請:20件)	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も混雑緩和と感染拡大防止に取り組む必要がある。
			●消防訓練等 ・火災、震災、異常気象、その他の災害・事故等の防止及び人命の安全並びに有事に際しての被害を最小限に止めるため、定期的に水族館職員に対し災害対策訓練を実施した。 ・令和4年5月23日～6月6日消防部分訓練を実施。 ・10月6日災害時の安否確認を主とした情報伝達訓練を実施。 ・11月5日沖縄県が実施した沖縄県広域地震・津波避難訓練を実施。 ・12月1日災害時の非常参集訓練を実施。 ・12月22日消防総合訓練を実施。 ・6月10日、1月29日普通救命講習会(心肺蘇生・AED・救急車要請手順)を実施。	・月報、実施報告書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も定期的に訓練や講習会を継続実施する必要がある。

2) 安全点検 法令に基づく点検に加え、自主的に管理する項目を定め施設の安全点検を下記の通り徹底する。 ・法令や建築保全業務共通仕様書等にもとづき、設備機器の正常で良好な保全に努める。 ・法令や建築保全業務共通仕様書等に定めのない設備機器等については、自主管理(点検要領)を定め正常で良好な機器保全に努める。 ・消防法にもとづき点検等を実施する。 ・運営管理を遂行するにあたっては、関係する法令等の内容を理解し遵守するとともに、法令等にもとづき、要求される点検や資格を特定の上、有資格者による点検を実施する。	○	○	法令に基づく点検に加え、自主的に管理する項目を定め施設の安全点検を下記の通り徹底して実施した。 ・建築保全業務共通仕様書等にもとづき、設備機器の正常で良好な保全に努めた。 ・法令や建築保全業務共通仕様書等に定めのない設備機器等については、自主管理(点検要領)を定め正常で良好な機器保全に努めた。 ・消防法にもとづき点検等を実施した。 ・運営管理を遂行するにあたっては、関係する法令等の内容を理解し遵守するとともに、法令等にもとづき、要求される点検や資格を特定の上、有資格者による点検を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後も安全衛生管理計画に基づき、法定点検、自主点検を継続実施する必要がある。
---	---	---	---	--------------------	-----------------------	---

※必要に応じて項目を追加・削除して記入すること。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

1. 維持管理業務 取組改善案	・大規模修繕について、築20年を超え、近年見込んでいなかった修繕が生じており、点検による早期把握と優先順位を付けた計画の策定と着実な実施が求められることから、引き続いて同計画に基づき県・国・指定管理者とで調整し実施する。 ・今後も利用者の安全・安心を確保するため、混雑緩和と感染拡大防止に取り組む。
--------------------	--

※「1. 維持管理業務」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

2. 運営業務

(1) 利用実績

1) 利用者数等

		令和3年度実績 (年間)	事業計画 (目標値)	令和4年度実績 (10ヶ月)	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
利用者数	個人利用者数	555,893	－	1,440,630	259.2%	－	・10月からの全国旅行支援の実施によって、個人旅行が増加し、修学旅行が回復した。それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加した。
	団体利用者数	64,222	－	246,043	383.1%	－	
	合計	620,115	1,240,000	1,686,673	272.0%	136.0%	
	教室・イベント参加者数(内数)	10,720	－	226,599	2113.8%	－	
評価(①利用状況)					S		

【評価基準（①利用状況）】

目標値に対する達成率

S：110%以上

A：100%以上、110%未満

B：80%以上、100%未満

C：80%未満

2) 施設稼働率

		令和3年度実績 (年間)	事業計画 (目標値)	令和4年度実績 (10ヶ月)	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
平均稼働率		242日	304日	306日	169.1%	100.7%	・12月の2日間を定期施設点検の休場日と計画していたが、多客日対応のため開場した。(点検は夜間等を実施。令和3年度は感染拡大防止のため121日間臨時休場)
平日・土日祝日別稼働率		平日163日 土日祝日79日	平日203日 土日祝日101日	平日205日 土日祝日101日	－	－	
施設稼働率を①利用状況の評価項目とする場合に本欄を使用する。					評価(①利用状況)		－

【評価基準（①利用状況）】

目標値に対する達成率

S：110%以上

A：100%以上、110%未満

B：80%以上、100%未満

C：80%未満

(2) 運営企画

事業計画	実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	(事業報告書)	(現地確認)		
【開場日数・運営日数】 通常期(原則121日) 繁忙期(原則183日) ※12月の第1水曜日とその翌日は休場日とする。 【対象施設】 ・水族館及び総合休憩所(飲食店等含) ・海獣施設及びウミガメ施設 ・P7駐車場 ・上記以外の施設	・営業日数は306日 通常期:225日(令和4年5/6～7/22、9/1～12/28、令和5年1/4～1/31) 繁忙期:53日(4/29～5/5、7/23～8/31、12/29～1/3) 時短営業日:28日(4/1～4/28) ・施設点検のための休場日としていた12月の第1水曜日とその翌日を開場日とした。(12/7、12/8)	・売上報告書、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・施設の効率的な運営と収益確保のため、通常期・繁忙期の時期見直しが行われており、今後も随時見直しを行っていく必要がある。
【開場時間・運営時間】 ・水族館及び総合休憩所 通常期:8時30分～18時30分 繁忙期:8時30分～20時00分 ・海獣施設及びウミガメ施設 通常期:8時30分～17時30分 繁忙期:8時30分～19時00分 ・P7立体駐車場 通常期:8時00分～19時00分 繁忙期:8時00分～20時30分 ・上記以外の施設 通常期:8時00分～18時00分 繁忙期:8時00分～19時30分	・令和4年5/6～7/22、9/1～12/28、令和5年1/4～1/31においては通常期営業とした。 ・4/29～5/5、7/23～8/31、12/29～1/3においては繁忙期営業とした。 ・4/1～4/28は新型コロナウイルス感染症防止の為、営業時間を短縮した。 ・水族館及び総合休憩所 9時00分～17時00分 ・海獣施設及びウミガメ施設 9時00分～17時00分 ・P7駐車場 8時30分～17時30分 ・上記以外の施設 8時00分～18時00分 料飲施設・物販施設等においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う運営時間の変更について別途協議し、変更した。			

(3) 料金収受

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
・沖縄県国営沖縄記念公園内施設の設置及び管理に関する条例第10条、第11条に基づき、入場料の収受に関する業務及び入場料の減免に関する業務等を実施する。 ・適切な経理管理	○		・法令、条例、定款及び会計規則に基づき、適切に入場料の収受に関する業務及び入場料の減免に関する業務を実施した。 ・入場管理システムを運用し、チケット発券・入場者カウント・入場料売上を管理した。 ・観光券(クーポン・バウチャー)の実施要領等を定め、旅行会社との契約を締結し料金精算等を実施した。 ・年間パスポートの料金精算及び発行等、年間パスポートシステムの運用、会員特典の付与等を行った。 ・クレジットカード及び電子マネー契約による利用受入れ、料金精算(料金授受)、利用手数料の支払いを行った。 ・金庫内の現金実査を毎月2回実施、現金管理に問題がないか確認作業を徹底した。	・料金徴収フロー図のとおり実施されていることをヒアリングにより確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

(4)飼育展示

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 水族館内 本施設のメインテーマである「沖縄の海との出会い」を基本に、「南西諸島・黒潮の海」の多様な生物の生態を正しく理解し、来館者が学習・体験できる展示構成とする。また、熱帯の華やかさと黒潮の躍動感に育まれた沖縄の海的美しさを展開することを目的として、世界規模の大型水槽を中心とした大型貴重種の飼育展示を行う。 更に、繁殖による効果の高い展示、解説等による情報伝達を行い、動物倫理にも十分考慮した生物と親しむ教育プログラムとして提供することで、環境学習の場として利活用し、利用者の満足度向上及び利用促進に努める。	○		・南西諸島の海洋生物を中心に約700種、10,000点の展示を行った。黒潮の海大水槽では、世界最大の大きさを誇るジンベエザメや複数のナンヨウマンタ、世界唯一のオニイトマキエイの展示を行った。サンゴ礁域生物に関しては、21年連続のサンゴ産卵やタビオカウツボ等、話題性のある生物の紹介をSNSやHPで実施した。また、深海域の生物では、カラクサシリス等の世界初展示や、当館で独自開発した人工子宮装置を用いたヒレタカフジジラの胎仔の展示を実施した。	・ヒアリングにより確認した。 ・展示施設を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・世界初や唯一の展示など、継続して新規展示が実施できている。また、希少種の繁殖や保全に資する飼育技術も向上している。 ・動物福祉に対応した飼育生物の管理ができている。
2) 海獣施設 海洋生物の特性・能力といった生態に関することとを学び、体感できるとともに、生態保護・繁殖等の海洋環境への理解を深めてもらうことを目的として、海生哺乳類、ウミガメ類及びメキシコ政府より寄贈され、飼育・繁殖を行っているマナティーの飼育展示を行う。 更に、繁殖による効果の高い展示、解説等による情報伝達を行い、動物倫理にも十分考慮した生物と親しむ教育プログラムとして提供することで、環境学習の場として利活用し、利用者の満足度向上及び利用促進に努める。	○		・オキちゃん劇場ではイルカショーを実施したほか、今年度に1オになる仔オキゴンドウの愛称が一般公募により「ライズ」に決定し、命名特別イルカショーを実施した。イルカラグーンでは令和4年4月1日に人工授精を行ったバンドウイルカが出産し、4月から公開した。マナティー館では今年度で1オになる仔マナティーの愛称が一般公募により「キュウ」に決定した。ウミガメ館ではアカウミガメとタイマイの同季繁殖に成功し、生まれた子ガメを活用し近隣の小学校と連携した環境教育プログラムを実施した。 ・また、水族館で行っているウミガメ繁殖研究が、36年ぶりに希少種繁殖の国内最高賞である「古賀賞」(JAZA)の受賞が決定した。	・月報、管理日誌、完了報告書、ヒアリング等により確認した。 ・現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・すべての飼育動物において健康管理に努め、動物福祉にも配慮した、良好な飼育展示や普及啓発を実施できている。

(5)生物等管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
1) 水族館内 飼育生物の適切な飼育、繁殖を実施するために、動物の健康状態を十分に把握し健康管理に努めるとともに、常に良好な状態で飼育、育成、繁殖等を行う。また、安定的な生物展示のため、計画的な補充に努め、自然界からの捕獲収集は最小限にとどめるため、希少種、水産資源重要種等の飼育下繁殖に努める。	○		・飼育生物の健康に十分配慮し、良好な飼育環境の維持ができた。特にジンベエザメ等の大型板鰓類については、定期的に超音波画像診断、採血や計測により、健康状態の維持に努めた。また、展示の質の維持および向上のため、漁業者と連携し、計画的な補充に努めるとともに、完全養殖のクロマグロを導入する等、自然界への捕獲収集を最小限にとどめた。さらに、シマツノコシオリエビ、ヤスリヤドカリおよびナカモトイロワケハゼの初繁殖が日本動物園水族館協会から認定される等、繁殖技術の確立に努めた。	・飼育日誌、月報、ヒアリング等により確認した。 ・沖縄県固有種や希少種の繁殖について、2021年に繁殖したヒョウモンドジョウ、2022年に繁殖したクロイワトカゲモドキおよびオガサワラツブリの初繁殖申請も新たに行っていることを確認した(現在審議中)。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

2)海獣施設 飼育生物の適切な飼育、繁殖を実施するために、動物の健康状態を十分に把握し健康管理に努めるとともに、常に良好な状態で飼育、育成、繁殖等を行う。また、安定的な生物展示のため、計画的な補充に努め、自然界からの捕獲収集は最小限にとどめるため、希少種、水産資源重要種等の飼育下繁殖に努める。	○	・飼育生物の血液検査や体重測定等を定期的の実施し、良好な飼育ができた。特に今年で1才になるオキゴンドウやマナティーについて、体重測定を定期的の実施し、成長等のモニタリングを行った。人工授精によりバンドウイルカの繁殖に初めて成功した。ウミガメ類においては、アカウミガメおよびタイマイの繁殖に成功し、生まれた子ガメの育成を適正に行った。	・飼育日誌、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・すべての飼育動物において健康管理に努め、良好な飼育展示を実施できている。各種の繁殖についても計画通りに実施できている。
--	---	--	----------------------	-----------------------	--

(6) 調査研究

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
熱帯・亜熱帯性動植物の生態の解明、飼育・育成等管理技術の向上、生物多様性・種の保存のための研究、情報発信を行う。特に、希少生物や国際的保護動物等の調査研究と飼育技術開発を行い、国際的に貢献性の高い事業を積極的に推進する。事業遂行にあたっては、沖縄の生物多様性と、水族館施設の利点を最大限活用し、他の施設では実現困難な研究課題にも積極的に挑戦する。また、地域の水産業等に貢献する研究、他の研究機関と連携した研究により、様々な学術交流の場を提供する。			【ジンベエザメ調査研究】 ・定期サイズ測定を継続中 ・ホルモンモニタリングを継続中 ・水槽内個体にデータロガーを取り付け、行動特性モニタリング調査を実施 ・オス個体の射精行動に関する調査を実施 ・近縁種を用いた人工繁殖技術開発を開始	・ヒアリングにより確認した。 ・一部、すでに展示に反映されているものは、現地に於て状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員(※指定管理者が調査研究や普及啓発事業の内容を効果的なものとするために独自に委嘱しているもの。以下同)コメント】 ・研究目標に沿った成果を順調に達成している。継続的な採血やエコー検査などから得られた多くの知見を公開している事は高く評価できる。データロガーの採用で今後の成果を期待している。 ・本年度もオンラインイベントや、書籍の出版など、社会に向けた積極的な啓発活動が行われていることは大きく評価できる。これらの事業はマスコミにも取り上げられ、水族館や総合研究センターのPRに大きく貢献している。
			【ナンヨウマンタ調査研究】 ・飼育下繁殖に向け飼育条件等を変え、引き続き実施 ・ペアリングにより追尾行動は確認できたものの交尾・妊娠に至らず ・雄の雌に対する追尾行動データの収集 ・飼育個体の定期血液検査による繁殖ホルモン等のデータ蓄積			・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 本研究に関連するコメントは特になし。
			【有藻性イシサンゴ類調査研究】 ・飼育サンゴの成熟状況を踏まえ、サンゴの採卵や幼生の飼育を実施 ・海洋公園園前の礁池周辺へ水族館で飼育したサンゴ幼生を放流し、着底までの放流効果の検証および継続的放流のための事前準備を行った。			・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・人工授精に向けた飼育鯨類の精液採取は重要なテーマである。採精困難な個体については、環境・行動・栄養状態・年齢などのさまざまなファクターが考えられるので、あらゆる可能性を探りながら数多くトライすることが重要。また、生理学的なアプローチも有効なので是非取り入れた方がよい。 ・今般治療マニュアルが出版されたことは高く評価できる。美ら海水族館の経験を活かした鯨種ごとのハズバンドリー(動物のトレーニングや取り扱い)マニュアルの作成に期待したい。
			【小型鯨類調査研究】 ・飼育鯨類の精子採取および精子性状のモニタリングを引き続き継続 ・シワハイルカに施した人工授精は受胎に至らず ・人工授精によるバンドウイルカの出産・育児 ・イルカの骨折等のCT画像による診断プロトコルを確立 ・尾鰭を失ったミナミバンドウイルカの人工尾びれ作成とリハビリによる遊泳能力の向上に成功			・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・予算が少ない中、色々努力している様子はみてとれる。今後はもっと本質的なテーマを設定し、それに向かう姿勢が欲しい。例えば子ガメの生態研究などがある。 ・沖縄島の産卵やスタンディングの調査や支援は望ましいので、継続してほしい。
			【ウミガメ調査研究】 ・飼育下ではアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイの同季繁殖に成功 ・タイマイの人工授精に向けた精子の保存調査を実施 ・ふ化率向上のためのサプリメントの開発を開始 ・腸内細菌に関する調査を開始			

○	【深海性フエダイ類等調査研究】 ・深海性のトウカイスズメダイの産卵に成功。仔稚魚の養成について各種技術展開を実施。 ・チンアナゴの飼育下繁殖、仔魚育成に関するプロジェクトを継続中 ・ノコギリザメやイモリザメ等の深海板鰓類の繁殖に関する知見の収集	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。
	【淡水希少魚類の飼育下繁殖】 ・希少淡水魚のミナミメダカおよびヒョウモンドジョウの生息域外保全の一環として、海洋博公園内の人工池に放流し経過観察中。 ・ヒョウモンドジョウ、イシガキバイスキバラヨシノボリの飼育下繁殖に成功	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・ヒョウモンドジョウの繁殖は評価できる。
	【海洋博公園周辺海域の生態系調査】 ・地先サンゴ群落および魚類群集のモニタリングを引き続き継続。 ・沖縄島北部での環境DNA調査を継続中	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・サンゴ礁のモニタリングにおいて、魚類相に変化が出たとしているが、今後の継続もしてほしい。また、棘皮動物や軟体動物のモニタリングも期待している。
	【南西諸島海域の海洋生態系調査および自然史資料の収集】 ・沖縄島北部の環境DNA観測点を全国観測ネットワークに追加。 ・水族館の深海魚採集に同行し、魚類相および分類に関する資料を収集。 ・ストランディング調査に対応 ウミガメ:10回 鯨類:6回 ・深海環境DNAによる魚類相把握のための技術開発を実施 ・深海蛍光生物に関する知見および標本データの収集 ・本年度上半期では日本初記録種を含む約190点の標本を新規登録し、外部研究機関等からの貸出依頼にも随時対応した。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・標本がより充実し、展示や部外への貸し出し、標本に基づく論文の出版などに貢献していることは評価できる。新種、新記録種はその性格上可能な限り遅滞なく公表されることが望ましく、外部専門家との連携も重要である。 ・生物蛍光に関しては、本課題のひとつの柱として研究の進展を期待している。 ・深海環境DNAの研究の成果発表を期待する。
	【沖縄周辺に來遊するザトウジラの出現状況、回遊状況調査】 ・尾びれの照合は引き続き継続中。自動化プログラムを実装。 ・国内外の研究組織と連携したデータ共有による新たな展開を開始。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。
	【内水面希少水生生物調査】 ・希少淡水魚のミナミメダカ、ギンブナ、ヒョウモンドジョウの海洋博公園内での生息域外保全の実行および脅威となる外来ウシガエルの駆除 ・名護市の小学校1校において、希少淡水魚保全等に関する出前授業を実施。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・本研究に関連するコメントは特になし。
	【地域と連携した水産資源、観光資源の利活用に関する技術開発】 ・ホエールウォッチング業者との連絡会議の開催。さらには地蔵的な観光資源利用のための新たなルールづくりに着手 ・読谷および国頭漁協操業の定置網等で捕獲される魚類を展示した。 ・水族館で得られた魚卵をふ化させ、親魚の育成コストのかからない養殖について研究を継続。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・地域事業者と協力して、ホエールウォッチングやスィムツアーのルール改善を図り、ザトウジラの保全に貢献していることは、非常に大きな地域や社会、保全への貢献で、大変評価できる。

		【飼育技術および新規展示生物の開発に関する調査研究】 ・加圧システムを用いて深海魚を環境適応させ展示に供した。 ・サメ胎仔を生存させるための人工子宮の開発。長期間の生存に成功するとともに、サメ類の繁殖様式の解説とともに展示した。また、当人工子宮で育成した個体を主産させ、7カ月間生存させることに成功した		・良好に実施できている。
		【①造船、航海他を含む南西諸島の海洋文化に関する調査研究及び普及啓発事業】 ・令和2年度に建造した奥武島のサバニに燻蒸処置し、令和3年度に続いて海洋文化館で展示した。 ・奥武島、北谷他で「ユッカヌヒーのハーリー」等儀礼行事実施状況と変容について調査した結果、宗教色の強い儀礼についてはその形態維持を確認した。 ・得られた結果は講演等の普及啓発事業に還元した。 【②海洋文化館の資料調査と利用促進】 ・館内・収蔵庫内の温湿度データを分析するとともに、管内資料のデータベースを更新した。 ・展示資料のクラカヌーの堅板の固定方法について調査を行い、報告書を作成した。 ・沖縄のハジチ、ポリネシアのタトゥーに関する調査の成果を活用し都留文科大他の監修の協力の下、海洋文化館において「ハジチとタトゥー展」を開催した。 ・得られた結果を講演会等に活用し、海洋文化館の集客に貢献した。		・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・サバニ建造の実態の現状を明らかにし、また着実に地元とのパイプを作っている。 ・奥武島、喜屋武、糸満、北谷でハーリーや正月行事、備瀬ではシヌグ舞の調査を行い、コロナ禍における伝統行事・儀礼の実態を把握し、一部の行事は簡素化傾向にあるが、宗教色の強い儀礼はその形態を維持しており、「カミ観念」の持続性が見られるという指摘は注目される。各調査地で撮影した写真や映像データは現地還元し、伝統行事の維持・継承に寄与した。また、調査資料に基づいて海洋文化館で講義を行い、伝統行事の継承の重要性を喚起した点は評価できる。 ・サバニ船体の虫害駆除およびクラ・カヌー船首部の堅板固定方法の検証などを適切に行い、展示品の品質管理を可能にする保存手法は不可欠である。また、常設展示だけでなく企画展「ハジチとタトゥー」を開催し、イレズミの沖縄とポリネシアの比較展示とイレズミ研究の第一人者によるシンポジウムを開催して、身体加工・装飾の実態を理解することができる貴重な機会を提供した点は高く評価できる。 ・海洋博公園と県立博物館・美術館を連動させるなど、新しいネットワークを構築しているように見受けられ、それが成果として評価できる。今後沖縄県内部あるいは県外との間で企画展や講座なども進める可能性も考えられよう。
		【国内外の水族館・研究機関との情報交流、共同研究、資料の収集】 ・新型コロナウイルスの影響低減により、交流が徐々に再開。米穀での国際学会をはじめ、国内外の学会や調査ネットワークに参加。国内組織としては・琉球大学、OIST、高知大学、大阪大学、理化学研究所、材料・物質研究機構、沖縄県衛生環境研究所等の多くの研究機関との共同研究を展開。		・良好に実施できている。 【外部評価】 ・本項目は各種研究事業にまたがっているため、外部評価委員会における個別の評価は行われていない。外部評価委員会では研究事業全体の成果説明の際に本件について紹介し、了承されている。
		【調査研究・研究交流成果の発表と公園利用者への還元及び水族館の各種活動への応用】 ・学術論文36編が受理・掲載された。 ・2冊の書籍を出版		
		【管理技術や魅力の向上に資する調査】 ・出口アンケートを引き続き実施（QRコード） ・出口アンケートの集約と反映 ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策表示の見直し ・音声案内等によるソーシャルディスタンス確保の注意喚起		・良好に実施できている。 ・県の対処方針に基づき、状況に合わせた新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施しする必要がある。

(7) 普及啓発

	内容	令和3年度実績 (年間)	事業計画	令和4年度実績 (10ヶ月)	整合性の検証		現状分析 ・課題
					前年比	計画比	
	【インタビュー学習】 県内外の学校や教育関連団体からの質疑応答に対応する。	【遠隔・メール対応】 12件144名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(10件)	19件139名	158%	190%	・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で来館できない学校団体からの依頼もあったが、対面での依頼に回復傾向が認められた。 ・引き続き全国の学校からの利用確保に向けて取り組む必要がある。
	【バックヤード見学】 水族館の裏側を見学し、飼育員の作業現場や水族館の設備について学ぶ。	19件297名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(25件)	32件538名	168%	128%	・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら県内外からの受け入れを継続した。 ・今後も感染状況を見ながら受入れ人数を調整し、実施できるよう努める必要がある。
	【講師派遣】 水族館の役割や飼育員のお仕事、生き物について講話する。	14件547名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(5件)	17件2,118名	121%	340%	・オンラインと館内で対応し、良好に実施できている。 ・引き続き県内外学校の利用増に向けて取り組む必要がある。
	【オンライン講座(有料)】 スライドや標本等を使い、生き物の生態等についてオンラインで職員から学ぶ。	13件955名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(3件)	17件1,291名	131%	567%	・普及啓発と収益プログラムとして学校や医療、福祉機関等を除く、一般向けに実施している。
	【生きもの観察プログラム】 生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	8件647名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。(5件以上)	8件478名	100.0%	160%	・新型コロナウイルスの影響が続き、実施件数が伸びなかった。 ・今後は利用数回復に向けて取り組む必要がある。
	【遠隔授業】 全国の病院・特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い、生き物の生態について学ぶ。	91件1,796名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(40件)	57件1,368名	63%	143%	・昨年度に比べると実施件数は伸びなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出制限が緩和されたこともあり、全国の医療機関や海外からの依頼に対応した。 ・今後も継続して取り組む必要がある。
	【触察プログラム】 県内外の視覚特別支援学校を対象に、生体や標本等を使い生き物の生態について学ぶ。	8件67名	視覚障害者への教育プログラムの開発及び実施。(5件)	4件33名	57%	80%	・対面での実施が復調した。 ・今後も依頼者の方針に適宜合わせて実施する必要がある。
	【移動水族館】 地域のお祭り等に生き物を積んだ活魚車で訪問し、水族館のPRや海洋生物の知識普及啓発を実施する。 (7,8,1,2月のみ)	1件418名	環境関連展示会への出展。(1件)	2件3,001名	200%	200%	・下半期に県内団体からの依頼を受けて実施した。 ・問い合わせも回復傾向にあるため、今後も継続して実施する必要がある。

教室	【ふれあい水族館】 水族館への来館が困難な方々(病院・福祉施設・離島等)を対象に、生き物を積んだ活魚車で訪問する。(7,8,1,2月を除く)	3件639名	福祉関連施設、離島等での移動水族館の実施。(1件以上)	1件67名	33%	100%	・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、医療・福祉施設での実施はできず、県立図書館と協力しての県内遠隔地での開催のみとなった。 ・医療・福祉施設での実施については、感染状況に応じて対応する必要がある。
	【職場体験】 県内の小学高学年(ジョブシャドウ)、中・高校生に対し、飼育員のお仕事体験を通して、働くことに対しての関心や職域を広げる。	6件16名	職場体験及び学校行事等の教育普及に対しての協力及び指導。(10件)	13件54名	217%	130%	・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて実施した。
	【飼育実習】 県内外の大学または専門学校において、水産または動物系を専攻している学生を受け入れ、飼育展示・解説業務等の実習を通し、実践的教育活動を提供する。	13件13名	飼育実習及び博物館実習の実施。(20件)	24件24名	185%	120%	・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じて実施した。
	【紙芝居読み聞かせ】 保育園や幼稚園を対象に、園内外で海の生き物を題材としたオリジナル紙芝居の読み聞かせやぬり絵を実施する。	【遠隔】11件445名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(1件)	11件343名	100%	1100%	・新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン対応を継続しつつ、対面での依頼を受け入れた。
	【映像貸出】 県内外の病院を対象に、展示生物の映像を貸し出し、癒し効果を与える。	10件	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(1件以上)	5件	45%	500%	・新型コロナウイルス感染状況が落ち着いてきたことで依頼件数が減じた。 ・今後は関係機関への周知を行い利用増に向け取り組む必要がある。
	【サンゴの苗作り体験】 水族館で飼育しているサンゴを活用し、参加者に苗を作成してもらう。作成した苗は「サンゴの海」水槽に1年間展示する。また毎月HP上に苗の状態を報告し、繁殖・増殖への取り組みを広くPRする。	8組20名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	-	-	-	・サンゴを活用したプログラムは、サンゴ繁殖展に変更して実施した。
	【ウミガメ放流会】 環境教育の一環としてウミガメの放流を実施し、来場者の環境保全に対する意識向上を図る。	-	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	6回68名	-	-	・7-8月に実施した「美ら海ナイトガイドツアー」内でウミガメ放流を行った。
	【ウミガメから学ぶ環境学習】 小中学校および教育委員会等と連携し、ウミガメとウミガメを取り巻く環境に関わる学習を実施し、環境保全意識の向上を図る。	2件270名	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。(2件)	3件192名	150%	150%	・新型コロナウイルス感染症防止対策を実施した上で、瀬底小学校、上本部学園(小学部、中学部)が参加した。 ・ウミガメ学習から派生して、園内施設を利用した環境学習を上本部学園(中学部)で実施した。 学習成果はポスター等に取りまとめ、ウミガメ館や水族館内で展示を行ったことで、児童生徒の達成感に繋がり、各学校への学習効果の高い授業実施に貢献したと思われる。

イベント	【海と日本プロジェクト】(持ち込みイベント) 世界で起きている海ゴミ・海水温上昇化・酸性化などの問題を、最新映像技術を駆使して子供たちに伝え、問題意識を持ってもらう	-	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	令和4年8月20日(土)～28日(日)の9日間 2,195名	-	-	・良好に実施できている。 ・美ら海シアターを有効活用し、デジタルコンテンツを用いた新たな試みであったが、海洋保全の普及啓発につながる取り組みであった。
	【Keep Our Oceans Amazing】in Okinawa Churaumi Aquarium(持ち込みイベント) ウォルトディズニー・ジャパンの掲げる「Keep Our Oceans Amazing」活動の一環として、世界的に絶滅の恐れがあるとされている10種の海洋生物のうち、沖縄美ら海水族館で展示されている7種について、デジタル体験／専門家による講座／スタンプラリーを通して海洋生物の保護への普及啓発を図った。	-	海洋生物についての正しい知識と理解のための啓発。	R4.12.8～R5.1.9の33日間 ①デジタル体験 R4.12.8～R4.12.15 ②特別講座 R4.12.8 本部小学校90名を招待 デジタル体験者数は4,100名 スタンプラリー体験者数500名	-	-	・良好に実施できている。 ・美ら海シアターを有効活用し、デジタルコンテンツを用いた新たな試みであったが、海洋保全の普及啓発につながる取り組みであった。
	【美ら海ゆうもどろコンサート】 GW期間中に新型コロナウイルス感染症対策と混雑緩和を目的とした催事を実施、分散化と利用者満足度の向上を図る。 ①本部町を中心に活躍する女性ボーカルユニットによる沖縄民謡ライブを実施する。 ②ミスト広場前に広がる海、または黒潮大水槽をバックにサクソ及びバイオリンによる生演奏を実施する。	R3.12.25～R3.12.30 感染拡大防止対策を行った上で実施。 演奏会場の観覧者数:1,369名	【質の高い快適なサービスの取り組み】 昼間の混雑緩和のため、繁忙期等においてイベント(ナイトアンサンブル等)を実施し入場者の分散化を図る。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況に合わせて実施を中止する。	①5/1(5/3はアーティストの都合で中止) ②5/1、5/3～5/5 演奏会場の観覧者数:1,121名	-	-	・新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、良好に実施できている。
	【開館20周年記念イベント】 令和4年11月1日で開館20周年を迎えるにあたり、地元沖縄への感謝と20年間の成果や歴史を来館者に伝え、また、「未来」に繋がるをコンセプトに沖縄美ら海水族館および周辺施設において様々なイベントを実施する。 1.開館20周年記念セレモニー 2.ジンベエバン・オリジナルステッカーの配布(入館者先着200名) 3.スペシャル遠隔授業(9団体向け) 4.JTA×沖縄美ら海水族館トークイベント 5.開館20周年記念広告出稿(沖縄タイムス、琉球新報) 6.世界初展示や繁殖の成功など、当館で起った20年間の出来事を年表と映像で紹介(11/1～30) 7.「美ら海シアター」で20周年の歴史特別上映(11/1～30) ※新型コロナウイルス感染予防対策の為、約20分の映像をリピート上映。 8.プレミアムバックヤードツアー(11/1～30)	-	周年記念イベントを実施し利用促進を図る。	R4.11.1～R4.11.30 期間中の入場者数:207,692名	-	-	・良好に実施できている。
	【MICEの実施】 営業時間外に黒潮の海大水槽前等をMICE会場として提供し、利用促進及び満足度向上を図る。	-	沖縄観光及び北部地域への振興に寄与するため、MICE目的の催事を実施することで、水族館の利用促進並びに魅力向上に努める。	R4.4.1～R5.1.31の通常期営業日 開催数:13回 参加数:635名	-	-	・新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、良好に実施できている。
	【オンラインイベント(aini)】 コロナ禍で来館が困難となった全国の子どもたちに、より質の高い学びの場を提供する。 また、沖縄美ら海水族館の研究や保全活動を紹介し、今後の活動への理解の促進を図る。	R3.5.3～R4.3.13 開催数:39回 参加数:3,077組	【質の高い快適なサービスの取り組み】 コロナ禍に即した非接触型の事業を推進し、オンラインイベント(aini)などの事業展開を図る。	R4.4.1～R5.1.28 開催数:43回 参加数:1,142組	-	-	・良好に実施できている。 ・引き続きオンラインを活用したイベントを実施し、国内・国外へ沖縄美ら海水族館の魅力を発信する必要がある。

(8) 飲食・売店営業

1) 飲食施設等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
①沖縄らしきや利用者のニーズに合致した地元食材を使用した沖縄らしいメニューの提供。 ②メニューの多言語化 海外からの利用者に対応したメニューの多言語化やピクトグラム等によるメニュー表の整備。 ③飲食施設の増設 多客時において、美ら海プラザ屋上テラスやキッチンカー等による飲食販売。 ④環境保護への取り組み 飲食施設で使用している使い捨てプラスチック製品を環境負荷の少ない代替品へ切り替え。 ⑤安全衛生管理等 食品衛生法、消防法等の関係諸法令にもとづき、安全衛生管理計画及び緊急時連絡体制を定め法定点検及び自主点検を実施する。	○		①地元特産品「本部町産あぐへ」豚肉を使用したあぐへカツカレーやスパムおにぎり、黒糖いなりなど沖縄らしいメニューの提供を行った。 ②メニューの多言語化 写真、番号等での表示、食材や調理方法、アレルギー情報等をピクトグラムで表示したほか、メニューの成分表についても他言語版を作成した。 ③美ら海プラザ前にてキッチンカーによる飲食販売を実施した。美ら海プラザ屋上テラスでは多客時における営業を計画していたが、利用者の増が見込めない状況のため営業は行わなかった。 ④飲食施設(カフェオーシャンブルー、レストランノア、オキちゃんバーラー)で使用している全ての容器について、環境負荷の少ない木製や生分解性製品に切替えし、脱プラスチックを完了した。 ⑤食品衛生法、消防法等の関係諸法令にもとづき、安全衛生管理計画及び緊急時連絡体制を定め法定点検及び自主点検を実施した。また、食品衛生管理マニュアル、異物混入対応マニュアル、食品アレルギー対応マニュアル、食材等発注マニュアル、食中毒対応マニュアル等のマニュアルを定め、衛生管理に努めた。	・①～④については、月報、現地にて状況を目視確認した。 ・⑤については、月報、業務日報、衛生点検表を確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各店舗の利用状況に応じた適切な人員配置を行い、収益の確保に努めている。(レストランノア、カフェオーシャンブルーは沖縄県感染防止対策認証店に認定) ・今後も収益を確保できるよう販売価格(市場価格並み)や利益率に考慮しながら、より魅力あるサービスとメニューの提供に取組む必要がある。

2) 物販施設等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
①水族館展示生物に因んだオリジナル商品等の販売 ②電子マネーやクレジットカード決済等の提供 ③販売士等資格取得者による接客・販売 ④安全衛生管理及び品質管理 ⑤イベントや旅行商品等への参画による利用促進、サービス向上 ⑥環境保護への取り組みとしてプラスチック製商品袋を環境負荷の少ない代替品へ切り替える。	○		①展示生物(ジンベエ、マンタ等)に因んだオリジナル商品を中心に販売を行った。 ②電子マネー(Edy、WAON等)やクレジットカード決済のサービスを提供した。 ③販売士の資格取得者を配置し、豊富な商品知識やお客様に配慮した接客サービスを提供した。 ④安全衛生管理計画及び緊急時連絡体制を定め法定点検及び自主点検を実施した。また、商品管理マニュアル等を定め、衛生管理及び品質管理に努めた。 ⑤沖縄レンタカー協会や航空会社と連携したクーポン券や全国旅行支援事業(おきなわ彩発見NEXT)への参画により利用促進、サービスの向上に努めた。 ⑥プラスチック製商品袋の代替品として紙製商品袋に切替えを実施した。	・①、②、④、⑤、⑥については、月報、ヒアリング、現地等で確認した。 ・③については、資格取得者一覧表と日報により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、各店舗の利用状況に応じた適切な人員配置を行い、新たに開設したオンラインショップも活用しながら収益の確保に努めている。 ・今後も収益を確保できるよう、販売価格(市場価格並み)や利益率に考慮しながら、より魅力あるサービスと商品の販売に取組む必要がある。

3) 自動販売機及びコインロッカー等

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
利用者が安全かつ快適に利用できるよう、安全面、衛生面、機能面及び景観に留意にし適切な管理を行う。	○	○	・自動販売機及びコインロッカーは、アンカー等による転倒防止策の実施と埃、汚れ等は、水拭きを行い、清潔な状態で利用できるよう管理を徹底した。また自動販売機運営マニュアルを定め、安全衛生管理に努めた。 - 設置台数 ・自動販売機:39台 ・コインロッカー:24口	・月報、日報、販売記録、ヒアリング等により状況を確認した。 ・現地に於て状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・自動販売機及びコインロッカーは、利用者が安全かつ快適に利用できるよう安全面、衛生面、機能面及び景観に留意しながら、設置、運営を行い、収益の確保に努めている。

4) 記念写真の撮影販売

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
水族館では展示生物をモチーフとした模型セットで記念写真撮影を行い、オリジナル台紙付の写真等を販売する。オキちゃん劇場では、夏休み期間や週末等に生物の健康管理に配慮しながら、新規に展示生物との記念写真撮影販売を実施する。	○	○	・美ら海プラザ内では展示生物をモチーフとした模型セットで記念写真撮影を行い、オリジナル台紙付の写真の販売を行った。オキちゃん劇場周辺ではイルカとの記念写真撮影を行い、オリジナル台紙付の写真の販売を行った。	・月報、日報(売上日計綴り)、ヒアリング等により確認した。 ・現地に於て状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、美ら海プラザ内及びオキちゃん劇場周辺で記念写真撮影、販売を行い、収益の確保に努めている。

5) 展示生物とのふれあい体験

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
有料体験プログラムとして、イルカ給餌体験、ウミガメ給餌体験、マナティ体験学習を実施する。	○		・有料体験プログラムとして、イルカ給餌体験、ウミガメ給餌体験、マナティ体験学習、イルカ体験学習、ウミガメ体験学習のサービスを実施した。	・月報、業務日報、ヒアリングにより確認した。 ・現地に於て状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、イルカ給餌体験、ウミガメ給餌体験、マナティ体験学習、イルカ体験学習、ウミガメ体験学習のサービスを実施し、収益の確保に努めている。

(9) 広報・誘客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
利用促進の為に 行催事や広報宣伝の企画立案、実施を行い、利用者向け広報、メディア広報、地域広報等について、公共性や実施効果等に留意しながら、パンフレットや広告等様々な情報ツールを活用し効果的に実施する。また、ロケーション、資料貸出、海洋博公園において開催される各種行事、集客イベントへ積極的に協力し実施する。	○		- GW期間の混雑緩和を目的に、「美ら海ゆうもどろコンサート」を実施した。 - お客様が一か所に集中しない様、分散化対策として一部プログラムやイベントを中止した。 - 水族館HPやSNS(Facebook・YouTube)で生き物の紹介などを行った。 - スマートフォンアプリ「美ら海アプリ」のお知らせ(プッシュ通知)を活用し、アプリケーション利用者に向け直接的な告知を行った。 - また、美ら海アプリでは「美ら海フォトコンテスト」を開催。おうちからでも応募できるコンテンツを提供した。 - 水族館を楽しめるよう、YouTubeにて動画配信やライブ配信を行い、国内外へ水族館の宣伝を行った。 「OKINAWA BLUE POWER」や「そらとぶピカチュウプロジェクト」へ参画し、コロナ禍における沖縄観光の活性化に繋がる施策を実施した。 HPアクセス数: 11,280,625件 美ら海アプリインストール数: 111,329人 YouTubeチャンネル登録数: 14,642人 YouTube視聴回数: 1,247,045回	- 月報、ヒアリングにより確認した。 - HP, SNS(Facebook, YouTube)で生き物の様子を配信したことを確認した。 - アプリの運用状況を確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	- 良好に実施できている。 - SNSやインターネットを活用した告知を積極的に実施した。 「オンラインイベント」の実施により、子供向けの学習コンテンツを提供している。 - 引き続き沖縄県や県内企業が実施するキャンペーンへ参画し、沖縄観光活性化に繋がる施策を実施する必要がある。

(10) 受付・接客

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
多様なサービスの提供 ・子供や障害者等の弱者及び外国人を含めたすべての利用者が快適に楽しめるよう施設や接客など、教育を受けた案内員を配置し、接客にあたる。	○	○	- 従業員ガイドブックを携帯し、海洋博公園の多施設及びプログラム案内・料金・利用時間等の基本情報の問合せに対応した。 - 外国人からの電話・メール等での問い合わせに対し、英語の他、多言語での対応を行った。 - 接遇に関する資格として、サービス介助士を新たに5名取得し、スキルアップに努めた。 - スタッフミーティングを実施し、団体予約状況の確認及び繁忙時に備えスタッフの配置を強化する等、お客様に対する満足度の向上に努めた。 - P7立体駐車場においてベビーカー・車いすの無料貸出を行った。 - 多言語対応として ①多言語パンフレットの設置 ②多言語での館内案内表示 ③外国語案内スタッフの配置 ④タブレット等での多言語通訳サービスの利用 を行った。 - 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、音声ガイドの貸出は中止とした。また、ベビーカー・車いすは台数を制限して貸出した。	ヒアリングにより確認した。	業務計画書のとおり適切に実施されている。	良好に実施できている。

(11) 情報管理

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
個人情報を適正に保護するため、「個人情報の保護に関する法律」「沖縄県個人情報保護条例」等関連法令を遵守するとともに、「個人情報・特定個人情報取扱規程」を独自に定め、個人情報の漏洩、滅失、及び棄損の防止を徹底する。	○		・各種関連法令や当財団の個人情報・特定個人情報取扱規程を遵守した。各種申請書やアンケート、名簿など、鍵付き書庫での保管や、担当者以外ではアクセスできないよう、データ管理を適正に行った。	・「個人情報・特定個人情報取扱規定」、ヒアリング等により確認した。 ・昨今多発しているサイバー攻撃によるリスクに備えるため、令和5年5月からサイバー保険へ加入していることを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。

3. 自主事業(公園関連事業・地域還元事業)

事業計画	実施主体 (該当者に○印)		実施内容		整合性の検証	現状分析・課題
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
・地域還元事業【継続】 国内主要都市でのプロモーション 国内主要都市におけるプロモーション事業や、「東京モノレール看板広告設置」、「JTAジンベエジェット、ソラシドエアタイアップ等航空会社と連携した事業」等を、北部地域と連携して行う。	○		・沖縄本土復帰50周年を記念して東京都で開催される特別展の関連催事へ、沖縄県、OCVBと連携して出展協力を行った。 ・OCVBと連携し、ツーリズムEXPOジャパンやだんごしまんぢゅフェスティバルへ出展しPRを行った。 ・やんばるチームどんどん協議会およびソラシドエアと連携し、ソラシドエア便利用者かつちむどんどん井購入者を対象としたキャンペーンを実施した。 ・やんばるチームどんどん協議会と連携し、イーアス豊崎でのプロモーションを年3回実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染症が収まりを見せる中、関係機関と連携した積極的なプロモーションを行った。 ・今後はWebやアプリを活用した効果的な情報発信、誘客方法を検討するとともに、水族館の調査研究成果を伝えるなどPRの手法も検討する必要がある。
・地域還元事業【継続】 フラワーロードの設置 水族館・海洋博公園の周辺地域の道路に造形花壇等を設置し、周辺地域の美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与する。	○		・海洋博公園周辺地域の美観向上、公園利用者の満足度向上に寄与することを目的に、水族館・海洋博公園の周辺地域の道路に設置された立体造形花壇の維持管理を行った。 ・立体造形花壇の維持管理として、草花の入れ替えと灌水作業を行い、灌水作業の一部は、「H30-34 海洋博公園周辺道路環境美化整備業務」の一環として、本部町観光協会が実施した。また、台風襲来時には、花苗の保護・飛散防止のため、立体造形花壇を防風ネットで覆う台風対策を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・立体造形花壇について、現地にて状況を目視確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
・地域還元事業【継続】 海洋博公園サマーフェスティバル2022(海洋博公園花火大会) 沖縄県を代表する夏の一大イベントとして、海洋博公園・沖縄美ら海水族館の利用促進および本県、特に本島北部地域の観光振興等に寄与することを目的として実施する。	○		・令和4年度の開催は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	感染拡大防止の観点から、中止とした。	・今後の新型コロナウイルス感染状況、国、県が示す新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する催物制限に係る留意事項等の情報収集を行い、次年度開催の可能性について検討を行う必要がある。

・地域還元事業 【継続】 海洋博公園美ら海花まつり 冬期の公園の利用促進、沖縄観光への寄与を目的に、県内各所で開催される「花のカーニバル」と連携し、冬の沖縄の誘客促進の一翼を担う「海洋博公園美ら海花まつり」を国営公園管理業務受託者と連携して実施する。	○	・令和5年1月21日(土)～3月31日(金)に開催。1/21～1/31の期間は、78,647名の入園者があった。 ※「H30-34国営沖縄記念公園運営維持管理業務」契約期間満了となる1月31日(火)で一旦業務終了とし、「R4-8国営沖縄記念公園運営維持管理業務」契約期間となる2月1日(水)～3月31日(金)の期間、継続実施した。海洋博公園の各所をベゴニア・マリーゴールド、ビオラ等の約31万株の草花で装飾展示した。 今回のテーマを「春到来！彩(いろどり)廻り」とし、春と夏の花を中心に展示を行った。中央噴水広場では、大規模花壇や、ヒマワリの鉢物展示、海の生き物の花絵やポランディアによる壁面装飾等を実施した。熱帯ドリームセンターでは、カンヒザクラ、チューリップの展示を実施した。美ら海水族館や熱帯ドリームセンターに至る園路沿いを立体造形花壇やFRP造形物等を使用して草花で装飾した。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・期間中開催された、海洋博公園エンジョイマラソンでは、コース沿いにFRP造形物と草花を組合せ花のフォトスポットやスタート及びゴール地点周辺に各種草花仕立てのプランターで演出し、花の癒やしの空間を提供することができた。 ・本部町や首里城公園と連携したPRを実施したことを確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・中央広場や熱帯ドリームセンターにおける草花の展示を、花の見頃に合わせて随時入れ替えや植え替えを行うことにより、期間全体を通して来客の満足度向上のための施策が実施されている。 ・次年度以降も多方面と連携したPRを図り、冬期の花のイベントの振興に努める必要がある。
・公園関連事業 【継続】 沖縄国際洋蘭博覧会 海洋博公園の利用促進や満足度向上、公園内施設の利活用を図ることを目的に、沖縄国際洋蘭博覧会等の国際規模行事実施の協力を行う。加えて、実施協力により、冬季の沖縄の観光振興へ貢献する。 H31年度は、アジア・太平洋地域及び国営公園管理業務受託者との連携の下、熱帯ドリームセンターで行われる国際規模のラン展示会開催に協力する。	○	沖縄国際洋蘭博覧会 ・令和4年11月12日～20日に開催した。国際的なラン展では初の試みであるオンライン審査会を実施し、最優秀賞の内閣総理大臣賞をはじめ、5つの審査の部に大臣賞を授与した。会場装飾では主要園路沿いをコショウランの鉢物を用い、館内要所にランの切花で写真映えするスポットを作った。葉の模様や質感の美しさを鑑賞する「ジュエルオーキッド」と呼ばれるランを展示し、花を鑑賞するだけではないランの魅力を発信した。関連催事では幅広い年代の方々に楽しんでもいただけるよう「ランの栽培教室&栽培相談コーナー」、「コサージュ教室」、「君もラン博士 スタンブラリー」などを行い6,726人の来館者があった。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・開催時期の変更やオンライン併用審査などこれまで実施してきた方法と異なることも多かったため、関係者にアンケートをとり、よりよいイベントにできるように再検討する必要がある。 ・目標入館者数を前回大会の約55%の10,000人としていたが、結果は約37.2%の6,726人となった。開催日数が前回より2日少ないこともあるが、経費縮減のためバスツアーや広告の規模縮小をおこなったこと、この時期の開催が浸透していないことなどが原因と考えられる。開催時期の再検討を含め、効率の良い広告宣伝や誘客方法など事業の効率化を図る必要がある。 ・今後もこれまでの洋蘭博覧会の実績を踏まえ成果と情報を発信し、ランを広く国民へ普及を図り、ランの保全、花卉園芸の普及、芸術文化の創造、観光振興等への寄与、都市緑化の推進と公園の利用促進につなげる必要がある。
・公園関連事業 【継続】 植物等に関する展示協力 熱帯ドリームセンター等の利用促進、魅力向上を図ることを目的に、国営公園管理業務受託者と連携して緑や花のイベントを開催する。	○	①熱帯の不思議な種子と果実展示 令和4年7月30日～9月4日 「果実の展示」と「種子の展示」を二つの会場でを行い、熱帯果実、種子の持つ特徴を、熱帯果樹や種子コレクションなどの実物とともに解説パネルで紹介した。7,140名が参加した。 ②ブーゲンビレア・ハイビスカス特別展示 令和4年12月3日～令和5年1月3日 熱帯植物試験圃場(公園外の当財団独自の圃場)で育成したブーゲンビレア16品種17株を展示した。 参加者は6,979人だった。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・指定管理者が保有する100種の種子コレクションや模型展示、館内で取れた熱帯果実等の実物展示、ドリアンやアセロラ等の熱帯果実の無料試食会等により、多くの顧客から好評を得た。
			・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・ブーゲンビレアは、沖縄でよく見られる品種から八重咲、斑入りなど様々な品種を展示し、ハイビスカスは、大輪系やコーラル系等の様々な品種を展示した。

			③ツバキ展 令和5年1月13日～15日の3日間実施し、524人の来場者があった。沖縄椿協会の共催により、56の種・品種（合計105鉢）の展示、また、華道広山流沖縄支部の協力により、ツバキを題材とした生け花の展示を行うとともに、ツバキの分布や品種、沖縄文化との関わりなどの解説パネル、ツバキ油製品や世界のツバキ切手など、幅広い展示を行った。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・油搾り体験に使用した種子は、秋に沖縄椿協会と指定管理者とが共同で採取作業を行ったものである。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・よりよい展示会にするべく、今後も関係団体との協力体制を構築・継続する必要がある。
公園関連事業 【継続】 緑化等に関する講習会 熱帯・亜熱帯都市緑化植物園等の利用促進や都市緑化の普及啓発を目的に、沖縄における最新の緑化事例や緑化技術等の発表の場を設ける。	○		・毎年10月に開催される沖縄都市緑化月間行事の一環として、「亜熱帯緑化事例発表会」を9月16日（金）に実施した（当財団が実施部会事務局）。 ・今年度は、一般公募により応募のあった緑化事例に関する発表4件、緑化技術に関する発表2件の発表を行い、審査により、最優秀賞1件、優秀賞2件を選出した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 ・今後、発表者の確保のため、県内の緑化事例の情報収集を継続して行うとともに、沖縄都市緑化実行委員会事務局（県土木建築部都市公園課）、開催担当市町村等、美ら島財団、関係団体等の連携及び募集方法を検討し強化する必要がある。
公園関連事業 【継続】 やんばる環境学習等の実施	○		①やんばる環境学習 ・上本部学園小学4,5年および中3年生を対象に全18回、海洋博公園内の施設を活用し授業を行った。 ・瀬底小学校5,6年生を対象に全5回の授業を実施した。授業内容は、本部町健甕の人工消波ブロックに定着したサンゴを定期的に観察し、変化等を追った。また沖縄美ら海水族館の飼育サンゴについても学習した。 ・県内の小中高等学校からの依頼により6回の出前授業を対応した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・このような事業は、それを行う担当者がいかに自分のやっていることを表に出していくかで決まる。その点で、担当者はもっとテーマ性を持って研究することが望ましい。例えば、ウミガメも産卵場の調査や幼体の放流だけでは時代遅れになってしまう。幼体の時期の生態解明など新しい機軸を打ち出すべきであろう。その結果をワクワクしながら、住民と見守るのが望ましい。
	○		②外部講演会等への対応 ・調査研究で得た知見をもとに亜熱帯性動植物に関する講演会や講習会は全80件、海洋文化関連の講座が3件、企画展1件を実施した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・財団が有する研究共同体で、地域連携を目的として、外部団体が主催する事業や講演などへの協力依頼について対応している社会貢献性の高い事業である。今後も積極的な協力・提供を期待する。
	○		③外部イベントへの出展対応 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ実施した。 ・沖縄県公衆衛生協会の依頼を受け、那覇市で開催された「サイエンスフェス」に出展しマダギガイをテーマとした解説やクラフトを行った（261名が参加）。			
	○		④委員就任や共同調査等の依頼 ・糸満市教育委員会より糸満市文化財保護委員委嘱 ・沖縄県レッドデータブック改訂委員会より編集作業依頼 ・令和4年度琉球大学ジュニアドクター育成塾（琉大ハカセ塾）協力依頼 ・海と日本PJ事業「キッズドクター」協力依頼 他多数			

○	⑤県内大学等連携寄附講座（公園関連） ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、琉球大学にて、令和4年4月14日の第1回から7月28日までの第15回まで、対面で講義を行った。聴講登録者数は66名で前年度の173.7%であった。財団職員14名が講師を務め、亜熱帯性動植物および歴史文化に関する調査研究・技術開発等の成果を紹介した。	・月報、ヒアリング等により確認した。 ・過年度まで名桜大学においても同様の講義をおこなっていたが、実施体制の再構築について大学側と協議・調整するため、今年度は実施していない。次年度以降の実施については、引き続き調整中である。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・成果のあがったよい活動だと評価できる。受講生の学年、専門など、さらに過去の受講生の針路（この講座が活かされたか）などの情報が欲しい。
○	⑥指導者育成事業（公園関連） ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、一般向けの講座は中止した。 ・研究センターの職員が財団職員向けに自身の研究等の事業をオンラインにて紹介する「月一ゼミ」を毎月1回実施した。毎回20名前後の参加があり、他分野の職員間での活発な意見交換が見られた。 ・本部町教育委員会の一部職員に向けて、海での安全な生物観察方法等についての講話を行った。 ・琉球大学コアファンシティ構築支援プログラム主催のマイクロプラスチック分析実習に参加し、関連講習会のレベルアップを実現した。 ・来園者向けのイベント「海洋博公園の海岸散策」のモデルケースとして、財団職員とその家族に向けてイベントを実施し、園内海岸についての知識向上と、一般向け開催への詳細な動きの確認した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・県内の小中学生が、視察や体験学習、研究等を通して探究心を育みながら、地域の自然について学ぶ機会を得る、評価の高い事業である。今後も発展継続を期待する。
○	⑦総合研究センター事業年報の発行 ・R3年度事業の成果をとりまとめ、HP上にて公表を行った。 ・R4年度の事業成果については、R4.3月に原稿作成を各係員へ依頼。5月のHP掲載に向けて作業を開始した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・良好に実施できている。
○	⑧調査研究・技術開発研究助成事業 ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、通常の調査研究・活動等の実施が困難であることから、新規公募を中止した。 ・過年度助成対象者の対応については、遅延申請1件、完了報告2件について対応を行った。 ・過年度報告分の報告資料のHP掲載による公表を開始した。	・月報、ヒアリング等により確認した。	・業務計画書のとおり適切に実施されている。	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けて新規採択は中止した。過年度採択者の事務処理について問題なく実施できている。 【外部評価委員コメント】 ・亜熱帯性動植物や沖縄の歴史文化等に関する調査研究・技術開発、普及啓発活動に取り組む個人・団体を対象に公募、活動の助成を行うもので、調査研究の育成、社会貢献性が高い。今後も発展、継続を期待する。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

2. 運営業務 3. 自主事業 取組改善案	・施設の効率的な運営と収益確保のため、通常期・繁忙期の時期見直しが行われており、今後も随時見直しを行っていく必要がある。 ・イベント・プログラムは感染症防止対策を講じながら、概ね良好に実施できている。 ・オンラインイベントや対面でのイベントの充実を図ることで、水族館の魅力を発信し、より質の高い学びの場を提供し誘客促進および満足度向上に取り組む必要がある。
--------------------------------------	--

※「2. 運営業務」「3. 自主事業」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度（R5年度）の主な取組改善案を記入すること。

Ⅱ. サービスの質の確認・評価

アンケート実施方法		WEBによるアンケート		回答者数		1,039		アンケート内容		別紙参照	
評価項目		第三者(利用者等)評価				指定管理者		現状分析・課題			
		令和3年度評価		令和4年度目標							
維持管理業務	施設・設備管理 (建物管理・清掃・植物管理)	S (99.3%)	90.0%	【施設の芝生・草花や植栽の手入れについて】 ＜満足度＞99.0% ・満足58.7% ・どちらかというと満足17.8% ・どちらかというと不満0.6% ・不満0.2% ・利用していない3.8% ・無回答18.9% 【建物・設備の管理、衛生・清掃状態について】 ＜満足度＞98.2% ・満足58.6% ・どちらかというと満足20.5% ・どちらかというと不満1.3% ・不満0.1% ・利用していない0.8% ・無回答18.7%		S (98.6%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) 業務計画に基づく植物管理を適正に行ったほか、水族館周辺で設置・花の入れ替え等維持管理している海の生き物の立体造形花壇等について、園路導線上に設置すること で、色鮮やかな花修景を創出し、水族館利用者の期待感を高める演出を行った。	・良好に実施できている。 ・引き続き適切な維持管理を行い、利用者の満足度向上に努める必要がある。			
				〈改善要望〉 特になし							
	施設・設備管理 (水族館の展示内容)	S (92.7%)	90.0%	【生き物の展示について】 ＜満足度＞98.4% ・満足65.7% ・どちらかというと満足18.1% ・どちらかというと不満0.9% ・不満0.5% ・利用していない1.1% ・無回答13.8% 【水族館内のショーや解説について】 ＜満足度＞98.3% ・満足52.2% ・どちらかというと満足14.7% ・どちらかというと不満0.9% ・不満0.3% ・利用していない16.2% ・無回答15.8% 【オキちゃん劇場等のショーについて】 ＜満足度＞96.8% ・満足37.0% ・どちらかというと満足9.4% ・どちらかというと不満1.0% ・不満0.6% ・利用していない32.2% ・無回答19.8%		S (97.8%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) ジンベエザメやナンヨウマンタ、世界唯一となるヒメイトマキエイやオニイトマキエイ、日本新記録種のピエロカエルアンコウやタビオカウツボ、世界で初めて当館で飼育下繁殖に成功したハタゴイソギンチャクの展示を行った。 海獣施設においても、国内唯一の展示種であるミナミバンドウイルカやシロハイルカ、ウミガメ類、アメリカマナティーの飼育展示を行った。 また、1才になるアメリカマナティーやオキゴンドウ、0才のバンドウイルカの繁殖個体の展示を行った。	・良好に実施できている。 ・新型コロナウイルス感染防止策を講じた上で、引き続き新規展示に取り組み、満足度向上に努める必要がある。			
				〈改善要望〉 特に無し							
運営業務	接客対応	S (97.8%)	90.0%	【スタッフの対応について】 ＜満足度＞97.9% ・満足50.0% ・どちらかというと満足21.3% ・どちらかというと不満1.3% ・不満0.2% ・無回答27.1%		S (97.9%)	(要望への対応) 特になし (自己評価) 接遇研修、安全教育を実施し多様なニーズにこたえられるよう、スタッフの技術・資質の向上に取り組んだ。	・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、資質向上を図るため、研修等を実施し、満足度の向上に努める必要がある。			
				〈改善要望〉 特になし							

施設・設備 (売店、スナック、レストラン等)	S (96.2%)	90.0%	【カフェ・レストランについて】 <満足度>87.5% ・満足17.4% ・どちらかというと満足8.3% ・どちらかというと不満2.5% ・不満1.2% ・利用していない50.9% ・無回答19.7% 【ショップ・売店について】 <満足度>94.2% ・満足34.0% ・どちらかというと満足22.3% ・どちらかというと不満2.7% ・不満0.8% ・利用していない19.1% ・無回答21.2% 〈改善要望〉 飲食施設や休憩施設・ベンチ等を増やしてほしいなどの施設要望や購入者ニーズなどの商品要望、遊覧車等の利便性向上の意見がある。(自由意見)	S (90.9%)	(要望への対応) 遊覧車コースの変更検討や新たな商品開発を行った。 飲食施設の改善要望については、多客時において美ら海プラザ周辺にキッチンカー等を出店し、飲食販売を行うことで要望に応えられるよう取組む。 (自己評価) 引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、地元特産品を活用したメニューの提供、オリジナル商品の販売、キャッシュレスサービスなど提供することで満足度向上に努めた。	・今後、満足度向上に向け、販売価格や利益率に考慮しながら、より魅力あるメニューの提供やオリジナル商品の販売に取組む必要がある。
教室・プログラム	S (100%)	90.0%	【美ら海オトナ塾「イルカ誕生秘話～妊娠から出産まで～」】 <満足度>100% ・満足64% ・やや満足36% 【美ら海オトナ塾「海の中のイカしたやつら」】 <満足度>100% ・満足100% 【美ら海オトナ塾「絶滅水族館へようこそ：不思議すぎる古代ザメの世界」】 <満足度>100% ・満足78% ・やや満足22% 〈改善要望〉 特になし	S (100%)	(要望への対応) (自己評価) 18歳以上の大人を対象とした年パス会員イベントとし、海洋生物の知識の普及や調査研究成果を発信した。 当館の飼育生物や沖縄に生息する希少生物、さらには人気の根強い古生物を題材に、生物多様性や生態を紹介し、参加者の興味関心をひく内容での開催となった。参加者からは、貴重な情報が聞けて良かったなど、好評であった。	・新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組んだ上で、良好に実施できている。 今年度は対面・オンラインによるハイブリット開催としたことで、遠隔地からの参加も得られた(対面47名、オンライン9名)。 ・今後の実施に際し、オンライン参加者へのサービス向上のため配環境を改善する必要がある。
総合評価 (各評価項目の平均)	S (96.3%)	90.0%	〈満足度〉 満足97.0%	評価 (②満足度) S	(自己評価) 今後も適切な維持管理・運営業務に努める。	・水族館の展示内容および接客対応において、満足度が向上している。 ・引き続き、適切な管理、新規展示などに取り組むとともに、研修等を実施し満足度向上に努める必要がある。

※評価項目については、施設の態様に応じて適宜設定すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

※満足度とは、指定管理者が提供するサービスに対する利用者の満足度のことをいうものとし、回答選択肢のうち、中位を超える割合により算定するものとする。

【評価基準 (②満足度)】

総合評価においては各評価項目の満足度の平均

各評価項目においてはそれぞれの満足度

S : 90%以上

A : 80%以上、90%未満

B : 70%以上、80%未満

Ⅱ. サービスの質の確認・評価 取組改善案	・県の対処方針に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、満足度の向上に努め、維持管理業務(建物管理・清掃・植物管理・水族館の展示内容)および運営業務(接客対応、売店・スナック・レストラン等、教室プログラム)で各評価項目においてそれぞれの満足度は90%以上となり良好に実施できている。 ・継続的に高評価が得られるよう、引き続き、適切な管理、新規展示などに取り組むとともに、研修等を実施し満足度向上に努める必要がある。
--------------------------	--

※「Ⅱ. サービスの質の確認・評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

Ⅲ. 財務状況の確認・評価

1. 収支

(1) 収入

収入項目		令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(10ヶ月)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項
利用 料金 収入	入場料収入	806,898,430	1,639,958,000	2,346,945,780	290.9%	143.1%	・収入増の要因:10月からの全国旅行支援等で入城観光客が大幅に増加し、それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加。R4年10月から入館料の改定を行った。 ・入館者数増の要因:全国旅行支援の実施によって、個人旅行の増、修学旅行が回復。11月に開館20周年記念事業を実施したこと等。
	売店等収入	656,768,935	1,632,993,000	2,196,400,336	334.4%	134.5%	・収入増の要因:全国旅行支援事業(おきなわ彩発見NEXT)による店舗利用者と客単価の増。イルカ給餌体験やウミガメ給餌体験、ガチャガチャ(サメの歯)の販売、バックヤードツアーやMICEの実施等。
	計	1,463,667,365	3,272,951,000	4,543,346,116	310.4%	138.8%	
指定管理料		1,745,840,028	55,973,500	904,481,987	51.8%	1615.9%	大規模修繕に係る指定管理料55,974千円、管理運営に係る指定管理料547,315千円、管理運営継続に係る県補助金301,194千円
雑収 入	雑収入	177,835,260	250,000	41,737,850	23.5%	16695.1%	雇用調整助成金32,911千円、彩発見地域共通クーポン差益1,133千円(クーポンの未使用分の受領)
	計	177,835,260	250,000	41,737,850	23.5%	16695.1%	
合計(A)		3,387,342,653	3,329,174,500	5,489,565,953	162.1%	164.9%	
(現状分析・課題)							
・10月からの全国旅行支援等で入城観光客が大幅に増加したことを受けて、入館者数が増加した。また、10月の入館料金の改定(大人料金で300円値上げ)、開館20周年記念商品の投入、全国旅行支援のクーポン利用などにより物販利用者数及び客単価が上昇し、収入が増加した。 ・今後も施設の魅力を高め、更なる入館者数を確保し、顧客のニーズを捉えた独自商品を提供できるよう引き続き努力する必要がある。							

(2) 支出

支出項目		令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(10ヶ月)	前年比 (%)	対計画比 (%)	特記事項(計画比の増減理由)
1	売上原価	2,806,917,777	3,196,106,000	3,668,392,665	130.7%	114.8%	
	<施設維持管理>	801,193,598	815,611,000	723,380,662	90.3%	88.7%	
	修繕費	6,463,911	13,568,000	7,620,109	117.9%	56.2%	台風等の被害を予測して修繕費用を確保していたが、台風等による生資被害等が無かったため。
	清掃費	141,653,628	145,330,000	141,561,090	99.9%	97.4%	
	植物管理費	46,063,907	47,100,000	44,976,711	97.6%	95.5%	
	動物管理費	112,687,706	132,409,000	97,796,491	86.8%	73.9%	低価格資料の導入による削減。生物採集回数削減。
	建物維持管理費	337,417,297	381,372,000	326,204,091	96.7%	85.5%	ショー実施時の音響操作の内製化による削減。
	減価償却費	133,079,763	84,998,000	95,196,151	71.5%	112.0%	備品購入による減価償却費の増。
	その他	23,827,386	10,834,000	10,026,019	42.1%	92.5%	
	<利用者サービス費>	1,070,415,359	1,032,648,000	1,127,982,283	105.4%	109.2%	
	人件費	803,616,999	722,648,000	864,696,602	107.6%	119.7%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う増。
	印刷製本費	33,245,170	42,912,000	34,874,409	104.9%	81.3%	
	利用者サービス費	92,231,320	139,370,000	114,171,330	123.8%	81.9%	営業時間の短縮、警備員の配置場所の見直しによる削減。
	賃借料	27,873,233	30,073,000	25,313,068	90.8%	84.2%	
	委託費	101,385,196	94,447,000	80,142,754	79.0%	84.9%	外国人の来館実態にそった外国語案内サービス業務の効率的な実施による削減。
	遊覧車負担金	12,063,441	3,198,000	8,784,120	72.8%	274.7%	計画より園内電気遊覧車の利用が進まず、負担金(電気遊覧車収支差額)が増となった。
	<広告宣伝>	28,249,634	37,701,000	17,003,680	60.2%	45.1%	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を勘案したプロモーション事業の削減。
	<商品仕入れ>	331,351,344	753,192,000	1,118,248,708	337.5%	148.5%	売上増に伴う商品仕入の増。
	<その他事務費>	575,707,842	556,954,000	681,777,332	118.4%	122.4%	
	消耗什器備品費	807,510	2,930,000	1,677,654	207.8%	57.3%	既存備品を継続活用したことによる削減。
	消耗品費	26,805,211	31,844,000	34,745,928	129.6%	109.1%	
	光熱水費	357,651,125	321,889,000	368,071,662	102.9%	114.3%	電気代の単価値上げによる増。
	支払手数料	50,537,457	92,717,000	161,676,637	319.9%	174.4%	入館者増に伴うクレジットカード決済手数料、旅行会社への誘客手数料の増。
	租税公課	104,581,566	60,457,000	77,659,310	74.3%	128.5%	売上増に伴う消費税の中間納付額の増。

	その他	35,324,973	47,117,000	37,946,141	107.4%	80.5%	
2	調査費	93,469,843	84,570,000	100,667,271	107.7%	119.0%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う人件費の増。
3	販売費及び一般管理費	179,961,977	148,120,000	175,326,661	97.4%	118.4%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う人件費の増。
4	県への固定納付金	275,297,948	1,013,797,000	301,193,701	109.4%	29.7%	
	<土地・施設使用料>	213,297,948	249,216,000	249,215,620	116.8%	100.0%	
	<大規模修繕費>	0	712,603,000	0	#DIV/0!	0.0%	
	<県職員人件費>	42,000,000	35,211,000	35,210,958	83.8%	100.0%	
	<県モニタリング費>	20,000,000	16,767,000	16,767,123	83.8%	100.0%	
5	大規模修繕費用	152,583,680	55,973,500	55,973,500	36.7%	100.0%	
	小計	3,508,231,225	4,498,566,500	4,301,553,798	122.6%	95.6%	
	公園関連事業	70,718,968	81,225,000	74,473,557	105.3%	91.7%	国際洋蘭博覧会の規模縮小による負担金の減。
	歩合納付金	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	
	合計(B)	3,578,950,193	4,579,791,500	4,376,027,355	122.3%	95.6%	

〔現状分析・課題〕

- ・入館者数の増や売店等収入の増に伴って、商品仕入費、支払手数料等の運営経費は増となった。また、電気料金の単価上昇に伴い光熱水費が増加した。
- ・令和2年度以降、時期に合わせた営業時間の随時見直し、低価格飼料の導入等、様々な業務の見直し・効率化の取り組みを継続しており、経費節減につなげている。
- ・今後は、必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る必要がある。特に、開館から20年が経過し、修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持することが求められる。

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

2. 経営分析指標

評価指標	令和3年度 実績(年間)	事業計画	令和4年度 実績(10ヶ月)	前年比 (%)	計画比 (%)	特記事項
事業収支(C) (収入(A)－支出(B))	△ 191,607,540	△ 1,250,617,000	1,113,538,598	581.2%	89.0%	
収益率 (事業収支(C)／収入合計(A))	-5.7%	-37.6%	20.3%	358.6%	54.0%	
利用料金比率 (利用料金収入／収入(A))	43.2%	98.3%	82.8%	191.5%	84.2%	
人件費比率 (人件費／支出(B))	22.5%	15.8%	19.8%	88.0%	125.2%	基本給カット・冬季賞与カットの終了、10月から基本給・時給改定に伴う増で計画比より増となっている。
外部委託費比率 (外部委託費合計／支出(B))	(855,905,673) 23.9%	—	(752,400,836) 17.2%	71.9%	—	
利用者あたり管理コスト (支出(B)／利用者数)	620,115人 5,771	1,240,000人 3,693	1,686,673人 2,594	272.0% 45.0%	136.0% 70.2%	コロナ前水準(H30:2,158円、H31:2,402円)に改善している。
利用者あたり自治体負担コスト (指定管理料／利用者数)	1,593,256,348 2,569	—	848,508,487 503	53.3% 19.6%	—	管理運営に係る指定管理料547,315千円、管理運営継続に係る県補助金301,194千円
(現状分析・課題) ・入城観光客の増に伴う入館者の増及び入館料金の改定により、事業収支及び収益率・利用料金比率は大幅に改善した。 ・自治体負担は、管理運営の継続のための応急的な措置であり、今期限りである。						

※「事業計画」欄は、当初の年間事業計画を記載するものとし、変更した場合には変更後の内容も記載すること。

※「現状分析・課題」欄は具体的に記入すること。

評価(③財務状況)	A	【評価基準(③財務状況)】 収益率(事業収支／収入合計) A: 0%以上 B: -5%以上、0%未満 C: -5%未満
-----------	---	--

Ⅲ. 財務状況の確認・評価 取組改善案	・飼育展示の充実等により施設の魅力を高め、更なる入館者数の確保に努める。顧客のニーズを捉えた独自商品を提供できるよう取り組む。 ・必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る必要がある。特に、開館から20年が経過し、修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持する。
------------------------	--

※「Ⅲ. 財務状況の確認・評価」の各項目の「現状分析・課題」等を踏まえて、現年度(R5年度)の主な取組改善案を記入すること。

【経営分析指標の評価の考え方】

評価指標	計算方法	評価の考え方
事業収支	収入－支出	事業収支がマイナスの場合、継続性の面で課題となるため、県、指定管理者で協力して黒字化のための方策を協議する必要がある。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。
収益率	事業収支／収入	計画、過年度実績、類似施設と比較して、安定したものとなっているか、適切な範囲内となっているか確認する。 ※計画や過年度実績に対し変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※計画等に対し上昇している場合、必要な変動費が十分に充てられているか確認すること。また、計画等に対し減少している場合、当初の収支見込が適切であったか精査すること。
利用料金比率	利用料金収入／収入	指定管理者の主な収入源がどこにあり、それが安定したものであるのかを確認する。 ※過年度実績に対し増減がある場合には、利用料金そのものの増減によるものか、自主事業等その他収入の増減によるものかなど、その要因を整理すること。
人件費比率	人件費／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※変動がある場合には、人件費そのものの増減によるものか、その他支出項目の増減によるものか、その要因を整理すること。 ※人件費の減少がある場合には、それにより効率が低下していないかを確認する。また、人件費の増加がある場合には、求められる管理水準に対し必要な措置か確認すること。
外部委託費比率	外部委託費合計／支出	過年度実績や類似施設と比較して、適切な範囲内となっているか確認する。 ※増減がある場合には、外部委託の範囲が仕様書等に定める適切な範囲内となっているか、外部委託の活用が業務の効率化に繋がっているか確認する。
利用者あたり管理コスト	支出／利用者数	利用者1人に対する管理コストについて、過年度実績や類似施設と比較することにより、当該施設の効率性を確認する。(コストが抑えられていても利用者が減少していないか、あるいは利用者は増加しているがコストがゆかり過ぎていないかなど) ※変動がある場合には、その要因を整理すること。 ※過年度に対し上昇している場合、現状の利用者数に対して支出が過大になっていないか確認する。また、過年度に対し減少している場合、現状の利用者数に対し、必要な変動費が十分に充てられているか確認する。
利用者あたり自治体負担コスト	指定管理料／利用者数	利用者1人に対する県の財政負担を確認する。 過年度実績や類似施設との比較により、当該施設の効率性を確認する。

Ⅳ. 総合評価

1. 目標

1. 目標							
評価項目		評価指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	目標設定の考え方
成果指標	①利用状況	利用者数	2,810,000	2,774,000	2,975,000	3,058,000	「R4-8国営沖縄記念公園運営維持管理業務民間競争入札実施要項」の海洋博覧会地区の公園利用者数を基に、水族館利用者数を算出(R5年度は入域観光客数を基に算出)
	②満足度	満足度	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	S評価を目標とする
財務指標	③財務状況	収益率	4.5%	2.5%	2.5%	2.5%	水族館利用者数を基に算出

2. 評価結果

2. 計画結果

評価項目		評価指標	令和3年度実績(年間)	事業計画(目標値)	令和4年度実績(10ヶ月)			現状分析・課題	評価(点数)	取組改善案	令和5年度目標値
					前年比	計画比					
成果指標	①利用状況	利用者数	620,115	1,240,000	1,686,673	272.0%	136.0%	・10月からの全国旅行支援の実施によって、個人旅行が増加し、修学旅行が回復した。それに伴い入館者数が計画に比べて大幅に増加した。	S (20)	・県・OCVB・旅行社・航空会社・北部地域等との連携による誘客活動や施設の魅力を伝えるSNS等の広報を強化し、国内外からの安定した入館者数の確保を図る。 ・混雑によって利用者満足度が低下しないよう、分散化を図る取組を進める。	2,810,000
	②満足度	満足度	96.3%	90.0%	97.0%	100.7%	107.8%	特に、水族館の展示内容および接客対応において、満足度が向上した。	S (20)	引き続き、適切な管理、新規展示などに取り組むとともに、研修等を実施し満足度向上に努める。	90.0%
財務指標	③財務状況	収益率	-5.7%	-37.6%	20.3%	358.6%	54.0%	・入館者数の増及び10月の入館料金の改定(大人料金で300円値上げ)による入場料等収入の増、開館20周年記念商品の投入、全国旅行支援のクーポン利用などにより物販利用者数及び客単価が上昇し、利用料金収入が増加し、収支は大幅に改善した。	A (5)	・飼育展示の充実等により施設の魅力を高め、更なる入館者数の確保に努める。 ・必要な経費削減の取組は継続しつつ、収入増につながる必要な施策を見極め、効率的な支出を図る必要がある。特に、開館から20年が経過し、修繕費用の増加が見込まれることから、必要な施設維持を適時に行い、顧客満足度を維持する。	4.5%
活動指標	④重点取組事項	体験プログラムの充実(海獣施設)	52,297人	—	112,989人	216%	—	イルカおよびウミガメ給餌体験等の体験機会の増加により、参加者数が増加した。	—	イルカおよびマナティー体験学習等の回数増加を図る。	
総合評価		・新型コロナウイルスの影響は続いたものの、利用者数は回復傾向となった。利用者のニーズに合わせて通常期と繁忙期の時期の見直しを行い、MICEの受入れ等を行うことで効率的な施設運営が行われている。 ・引き続き体験プログラムの充実やオンラインイベント等を活用し、魅力度アップや満足度向上に取り組む必要がある。							S (45)		

※重点取組事項の「評価指標」には具体的な取組内容を記載すること。

※「総合評価欄」には、モニタリングの実施結果に基づき、施設の管理運営が適正に行われているか所見を記載すること。

※「現状分析・課題」、「取組改善案」は6－Ⅰ～Ⅲから転記する。

※「 $\alpha + 1$ 年度目標値」は、「取組改善案」を踏まえ、減年度の目標を可能な限り数値目標として設定する。

【評価基準】

①利用状況

目標値に対する達成率

S：110%以上

A：100%以上、110%未満

B：80%以上、100%未満

C：80%未満

②満足度

総合評価における満足度（各評価項目の平均値）

S：90%以上

A：80%以上、90%未満

B：70%以上、80%未満

C：70%未満

③財務状況

収益率（事業収支／収入合計）

A：0%以上

B：-5%以上、0%未満

C：-5%未満

④重点取組事項

目標に対する評価

S：目標を大きく上回る

A：目標を概ね達成

B：目標を下回る

C：目標を大きく下回る

【総合評価基準】

	総合評価基準
S	40点以上 かつ各評価項目において C評価がないこと
A	25点以上
B	10点以上
C	5点以下

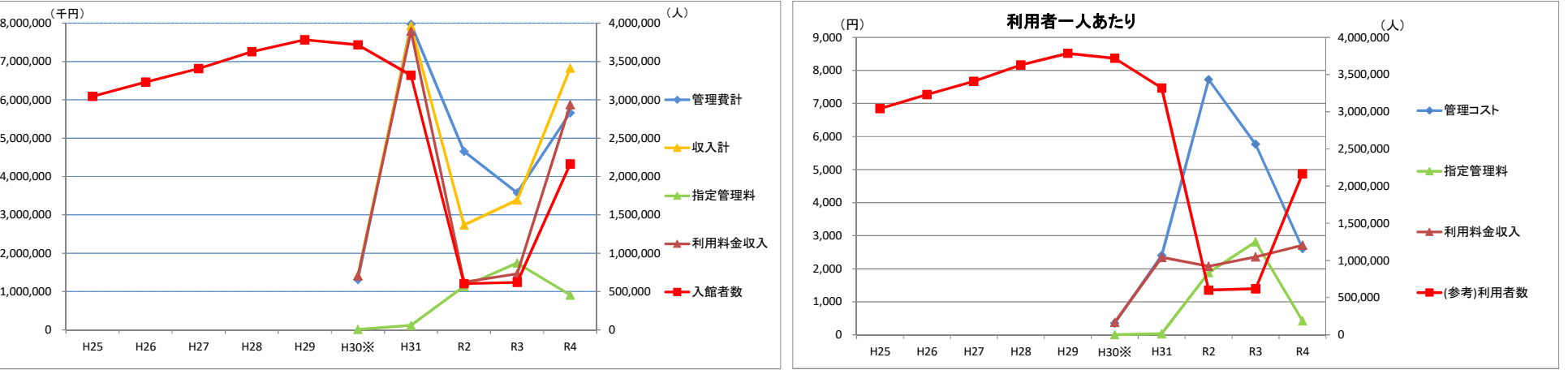
【各評価項目点数】

	① 利用状況	② 満足度	③ 財務状況	④ 重点 取組事項
S	20	20	—	10
A	10	10	5	5
B	0	0	0	0
C	-10	-10	-5	-5

経営状況分析シート【施設名称:沖縄県国営沖縄記念公園内施設(海洋博地区内施設)】

指標			国管理													沖縄県指定管理					
成果指標	入館者数	目標	単位	H15	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30※	H31	R2	R3	R4
		実績	人	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3,640,000	720,000	1,660,000	1,519,000
		目標比	%	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	91%	84%	37%	142%
		H15比	%	100%	108%	122%	125%	112%	109%	109%	113%	122%	130%	137%	146%	152%	149%	133%	24%	25%	87%
財務指標	満足度	実績	%														97.9%	98.3%	96.3%	74.9%	97%
	指定管理料	千円														13,648	118,911	1,135,607	1,745,840	909,790	
	県負担割合(指定管理料／管理費計)	%														1.0%	1.5%	24.4%	48.8%	16.1%	
	利用料金収入	千円														1,412,720	7,792,152	1,248,073	1,463,667	5,874,778	
	利用料金比率(利用料金収入／収入計)	%														99.0%	98.2%	45.6%	43.2%	86.0%	
	収入計	千円														1,427,027	7,931,912	2,735,369	3,387,343	6,828,092	
	管理費計	千円														1,314,075	7,974,556	4,652,909	3,578,950	5,661,586	
	収支	千円														112,952	-42,644	-1,917,540	-191,608	1,166,505	
	収益率(収支／収入計)	%														7.9%	-0.5%	-70.1%	-5.7%	17.1%	
	/単位	一人あたり管理コスト	円														353	2,402	7,723	5,771	2,616
一人あたり指定管理料	円														4	36	1,885	2,815	420		
一人あたり利用料金収入	円														380	2,347	2,071	2,360	2,714		

※施設の特性に応じて、経営状況の分析に適した指標の追加・削除や、表示方法の修正を行うこと。
※グラフは直近10年間の実績で作成すること。指定管理者制度導入前に直営の期間がある施設については、指定管理者制度導入直前1年間のデータも含めて作成すること。
※沖縄県による管理が平成31年2月から開始されたため、入館者数以外については、2ヶ月分の結果となっている。管理以前の入館者数については、国営沖縄記念公園事務所パンフレット参照



実績変動の要因分析

令和4年度	
令和3年度	
令和2年度	
令和元年度	